

大学における被服製作導入教育のためのオンラインデジタル教材の開発

(和洋女子大院・総合生活) ○下之角千草、玉利舞花、酒巻貴美、鬘谷要

【諸言】発表者は2004年から2010年まで実験助手として、大学での洋裁実習授業、授業補佐の経験を有しており、当時(約20年前)の学生と現在の学生を比較すると、被服製作の基本的な知識や経験の低下を感じる。先行研究から考えられる理由として、学習指導要領の改正による「被服製作」「布を用いた製作」に関する内容の削減により扱われる細目が大幅に減少していることが挙げられる[1]。中学校、高等学校では男女共修化以降、「被服製作」課題の易化と精選化が進んだ[2]。そこで、大学で服飾を専攻する学生に向け、基礎的な知識および、洋裁の基本技術を確実に修得させる方法を検討し、大学入学前後にオンラインデジタル教材を導入し評価した結果を報告する。

【調査方法】まず大学入学前の被服製作の経験を詳細なアンケートにより把握した。対象者は和洋女子大学、服飾造形学科の学生とした。アンケート項目は先行研究と、家庭科の教科書に記載されている作品例から引用し、「その他アイテム」「何も作らなかった」「覚えていない」の選択肢を加えて複数回答で選択させた。アイテムごとに布から裁断して製作したか、製作キットを使用したかも合わせて調査した。また、学校の授業以外に広くクラブ活動や学校の行事、イベント、自主的なもの作りについても詳しく記述させた。自主的なもの作りにおいて、環境が影響していると考え、布を使ったもの作りをする人が身近にいるかどうか、ミシンの保持の有無、さらに洋裁に関してどのようなところに難しさを感じているかを自由に記述してもらった。

【調査結果】小学校では製作キットを使用した人が多かった。中学校の製作品では、印象に残らなかったのか特に多い回答は「思い出せない」だった。高等学校の製作品で最も多かった回答は「何も作らなかった」。一方、高等学校では被服科の学生もいることから、シャツ・ブラウス・浴衣など高度な技術が必要な作品を製作している学生も見受けられた。布を使ったもの作りをする周囲の人の存在および、大学入学前の被服製作物の経験値をスコア化し評価したが、期待されるような差は認められなかった。一方、ミシンの保有については、被服製作物の経験値においてミシンを持っている人の方がスコアは高い傾向が認められた。また、授業内・外に製作したものを重み付けしてスコア化した結果、中学校での経験が全体的に乏しいことがわかった。小学校では布を用いた製作を経験している人が多いが、中学校・高等学校では経験する機会がなかった人が比較的多い。一方で被服系高等学校に入学し、多数の被服製作を経験している生徒もいることで高等学校全体のスコアを上げている側面があると考察した。

【動画制作】小学校の家庭科を最後に、被服製作経験がない人がいる一方、服飾系学科を卒業している人もいて、大学へ入学する前は被服製作経験にかなりの差があることがわかり、被服製作経験のない人に向けた教材が良いと考え、とにかく簡単でもの作りの楽しさを伝えることに重点を置くこととした。動画では難易度の異なるピンクッション3種と、ハサミケースの計4種類の製作方法を、小学校で購入した裁縫セットのみを用いて解説した。入学前の高校生向けの説明会に案内文を配布し、希望者には製作キット(生地、綿、副資材)を用意して送付した。入学前学習用専用webページ(<https://wayohandmade.hp.peraichi.com>)を作り、簡単に動画を視聴できるよう工夫した。入学前動画教材を提供した結果、体験した学生からは「動画がわかりやすく簡単に作れた」「基礎練習になったので楽しかった」「縫うことが苦手なので練習目的でやってみたら上手くできた」等、非常に高評価を得られた。一方、入学者に対して本プログラムに参加した割合が低く、入学前の課題に対してあまり需要が高くなかった可能性が示された。この結果を受け、新たに入学後の学生に向けたオンデマンドデジタル教材開発に着手し、手技の細部を収録した動画を制作した。本年度より通常の授業科目で活用を開始し、随時復習できるよう動画を公開した。学生は積極的に動画を見ており、技術の定着に予想を上回る効果が現れ、実技教育へのデジタル教材の有用性が示された。

[1] 川合みちる他、「小・中・高等学校の系統性に配慮した被服製作題材の検討」(2008年)

[2] 渡瀬典子「小学校家庭科、中学校技術・家庭科における布を用いた製作題材の変遷」(2023年)

Research on Online Digital Teaching Materials for Introductory Training in Clothing Creation at University, Chigusa GENOSUMI, Maika TAMARI, Atsumi SAKAMAKI, and Kaname KATSURAYA: Graduate School of Human Ecology, Wayo Women's University, University, 2-3-1, Konodai, Ichikawa, Chiba, 272-8533, Japan, Tel: 047-371-1215, Fax: 047-371-2482, E-mail: c-genosumi@wayo.ac.jp